

3 家庭との連携

学習は脳の働きに支えられて行われるものである。本校でも、昨年度から脳神経科学の知見を授業の中に取り入れ「思考力」の育成を行ってきた。その「思考力」の育成も家庭との連携がうまくいってこそ相乗効果があることは、 章でも述べたとおりである。

ここでは、私たちがこれまでに得た「思考力」育成に関する脳神経科学の知見や本校の取り組みを保護者や子どもたちと共有するために発行した『子どもの生活習慣向上プリント「Do you 脳？」』（以下「Do you 脳？」）について、どのように連携を図っていったか、また連携を通してのどのような成果や課題が生まれたか述べていきたい。

(1) 「Do you 脳？」を通しての連携

保護者の興味・関心を誘うテーマ「脳」

今、社会全体において「脳」に関する興味・関心は非常に高いものがある。雑誌でも「脳」に関する特集が組まれたり、ゲームにも「脳」を活性化させるソフトが開発されたりしている。昨年度から行ってきた研究に対しても、保護者から好意的な意見が多く寄せられた。「脳」というテーマは保護者にとっても興味・関心を誘うテーマであることは明らかである。

このように、社会全体で興味・関心が高く、本校でも昨年度から継続して研究を進めている今こそ、これまでに得た脳神経科学の知見や本校の取り組みを発信することはよい機会である。また、この機会であるからこそ、保護者にとっても身近な生活習慣が「脳」に多大なる影響を及ぼすことを知ることで、その改善に対して切実感をもって取り組んでくれるであろう。

私たちにとっても保護者にとっても、互いに子どもの「脳」をはぐくむための有益な情報を共有するよい機会と捉え「Do you 脳？」を発行することとした。

連携の場

「Do you 脳？」では、「思考力」を育成するためによいとされる生活習慣について、プリントにして配布することを基本とした。しかしながら、プリントにして発行しただけでは一方的に情報を提供することにつながりかねない。そこで、多様な連携の場を設定し共有化を図った。

まず、「Do you 脳？」の内容について学級懇談会のテーマとして取り上げ話し合うこととした。このことによって、目的をより詳しく説明することができ、その効果についても保護者の方から直接意見や感想を聞くことができた。そしてなにより、家庭での様子や対応について話し合いが行われたことで、教師と保護者だけではなく保護者同士のコミュニケーションも図ることができたことも大きな成果であった。

また、10号程度発行した後に振り返りのアンケートを実施した。アンケートの項目は右のとおりである。アンケートを実施することで、保護者の興味ある内容や、どれだけの人が読んでくれているか知ることができた。保護者の声を参考に、発行の計画を一部変更し新たな特集を組んだり、今まで発行した内容をさらに詳しく説明したものを発行したりした。

| |
|--|
| だれが読んでいるか 興味があった号 家庭で実践しているか 取り上げてほしい内容 生活習慣での悩み |
|--|

【アンケートの項目】

このように「Do you 脳？」を通して、多くの連携の場をもったり、アンケートを実施したりすることで、学校と保護者、子どもたちが双方向のコミュニケーションを図ることができた。

(2) プリントの発行にあたって

テーマについて

「脳」がいくら保護者にとって興味・関心のあるテーマといえども専門的な内容であれば情報は一方通行になる。そこで、専門的な情報を発信するだけでなく、なぜ「脳」によいのか、またどのように実践すればよいのかを「脳」の仕組みと生活習慣を関連させ、具体的な方法についても紹介していくことにした。なお、専門的な情報が必要な場合には、それらの内容についての注釈を付け加えていくこととした。

以上のことを踏まえながら、保護者のニーズにあったものや、家庭生活で特に重要視してほしい点などをピックアップしてテーマとし、さらに細かなトピックスを設定した。

| テーマ | トピック |
|-----------|-------------------------|
| 睡眠 | サーカディアンリズム レミニッセンス効果 時間 |
| 食事 | 朝食 食品数 ブドウ糖 |
| 家庭学習 | 情動 精緻化 簡略化 反復 五感の活用 |
| 記憶 | 記憶のメカニズム 長期記憶 短期記憶 |
| テレビ | 時間 功罪 しながら |
| ゲーム | 脳によいゲームの仕方 ゲーム脳 クールダウン |
| 活性化 | ドリル 音読 |
| コミュニケーション | 会話 スキンシップ アイコンタクト 虐待 |
| 臨界期 | 第2言語 手続き記憶 |
| 脳の大切さ | 前頭前野 知・徳・体 汎化作用 |

【「Do you 脳？」のテーマとトピック】

発行の期間

先述の通り、これらの内容はまさに今がブームである。そのため、効果を家庭と学校がなるべく早く実感できることが望ましいと考え、平成18年10月～平成19年7月までの間に約30号の予定で発行することとした。その間、定期的に1か月に2号発行する以外にも、学級懇談会や長期休業前にも発行し、機会を捉えて情報の共有化を図ることとした。

配慮事項

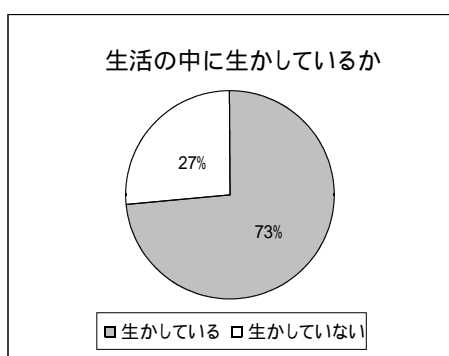
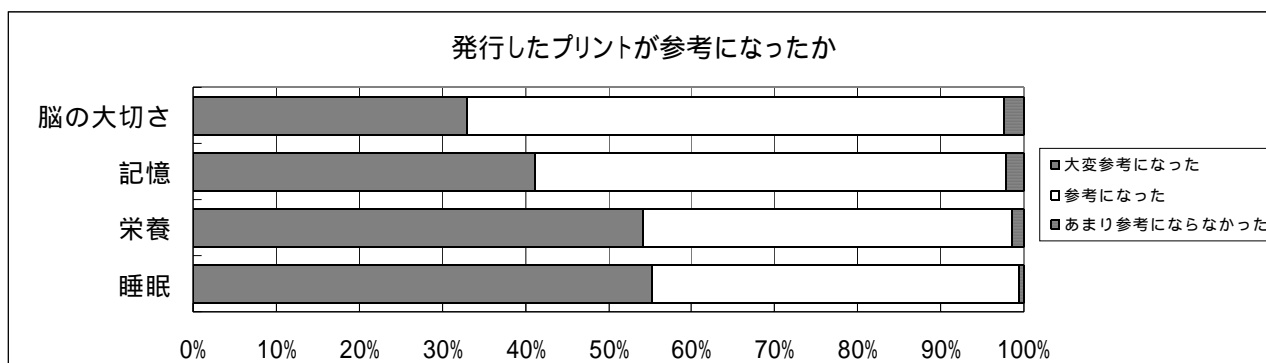
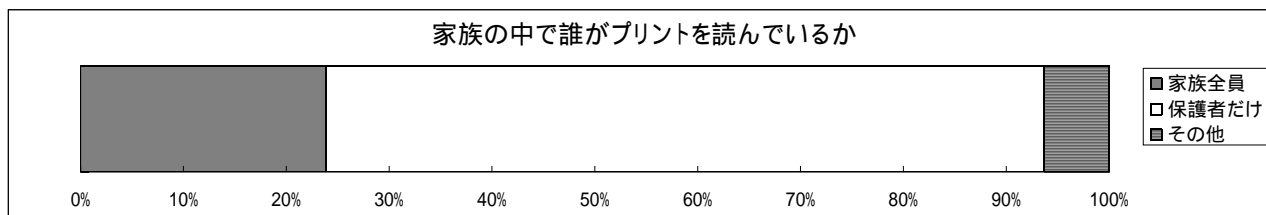
「Do you 脳？」は多くの人に読んでもらってこそ、その効果が生まれてくる。それは、保護者だけでなく、子どもにも読んでもらえることが望ましい。そこで、多くの人に読んでもらえるようにするため、発行に当たっては以下のような点を工夫することとした。

- ・学校からの一方通行にならないように、経験や実話などを加える。
- ・第1号で、発行計画を出し、プリントの目的や意図について説明を行う。
- ・子どもも読めるよう、4年生以上の漢字にはふりがなを付ける。
- ・前回出された号の簡単な説明と、次回の予告を行う。
- ・できるだけ文章量を減らし、カットを加え見やすい紙面を心がける。
- ・コラムを紹介したり、ある考えに対して賛成・反対の立場で述べたり構成を工夫する。

(3) アンケート結果から

保護者の声

アンケートは10号を発行した後、先述の項目について全校生の保護者を対象に行った。その結果は以下の通りであった。



- 《保護者からの声》---
- ・朝食は必ず摂るようにしている。パンよりもご飯にしている。
 - ・栄養のバランスを考えた食事を作るよう心がけている
 - ・睡眠時間を十分確保し、テストの前には早く寝るようにしている。
 - ・規則正しい生活のリズムを心がけている。
 - ・一夜漬けをやめ、計画的に勉強をできる話し合っている。
 - ・親子で覚えてしりとりなどのゲームをしている。
 - ・長期記憶になるよう語呂合わせを考えている。
 - ・親子のコミュニケーションをよりもつようにしている。

アンケートの結果から

アンケートの結果から、おおむねプリントの目的は達成されているといえよう。しかしながら、もっと子どもが読んだり、生活に生かしたりする割合を高める必要がある。また、保護者は脳に対しての関心は高いが、とりわけ「栄養」や「睡眠」といった生活とより密接な関係のある内容に興味があることが分かった。そこで、発行に当たっては、もっと簡単な言葉を用いて分かりやすく説明したり、読んだことがより生活に生かせるような内容を紹介したりするよう心がけた。

また、保護者から「ゲームやテレビと脳の関係」「運動と脳の関係」などについて紹介してほしいという声が多く寄せられたので、ニーズが高い内容を繰り上げて紹介したり、新たな内容を追加したりと発行計画を変更することとした。

このように保護者の声を「Do you 脳？」に反映して、より学校と家庭との双方向のコミュニケーションを図ることができた。これまでに得た「思考力」育成に関する脳神経科学の知見や本校の取り組みを保護者や子どもたちと共有し、生活に生かしていこうとする状態ができることによって、「思考力」育成の相乗的な効果が期待できつつある。